

独立行政法人天下り問題 事業仕訳け

第2回目の政府の事業仕訳けでは、独立行政法人が俎上に上ったが、現実には独立行政法人以外に、以前の財団法人、社団法人など公益法人系の省庁の外郭団体が隠れ蓑となって、本来、民間が行うべき各種業務を天下り先の公益法人が随意契約などで一手独占し、実施してきた問題がある。ここでは、それらをいくつかモデル化してみた。

青山貞一 政策学校一新塾代表理事

独立行政法人 公益法人の メカニズム

資格ビジネス

認証・登録料ビジネス

民間ビジネス妨害

競争入札妨害(随意契約)

中抜きビジネス

天下り先への随意契約による
巨額の「委託・助成・補助」

巨額の内部留保

費用対効果意識の欠如

経営意識の欠如

巨額の「海外旅費」「経費」

業界・協会による談合行為

時代遅れの組織温存

巨額の「はこもの」建設

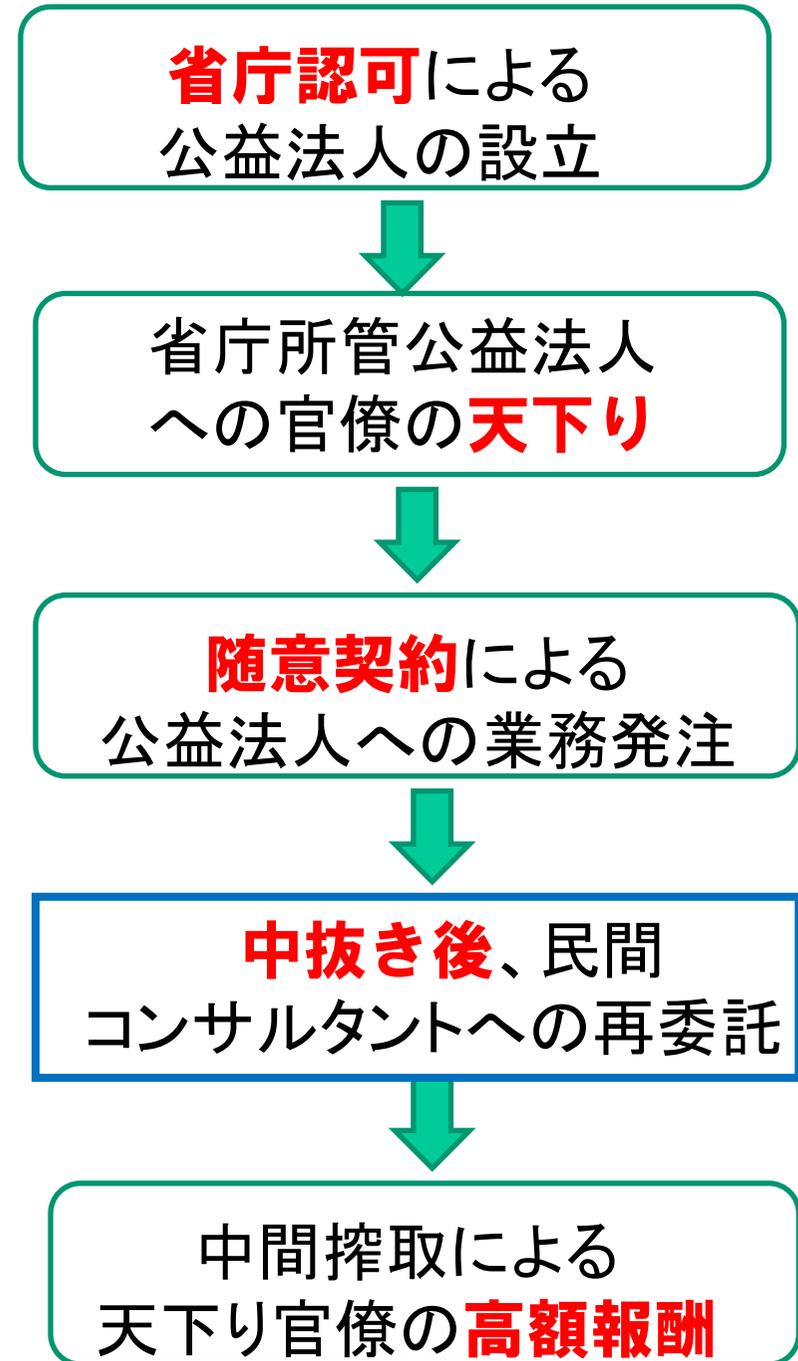
職員採用の不公平(縁故など)

省庁職員の旧国立大学教授への天下り

特権的地位の確保

独立行政法人 公益法人問題の メカニズム

随意契約と 中抜きビジネス



独立行政法人 公益法人問題の メカニズム

随意契約と 御用学者利用

省庁認可による
公益法人の設立



省庁所管公益法人
への官僚の天下り



随意契約による
公益法人への業務発注



省庁御用学者による
委員会と謝金支払い



中間搾取による
天下り官僚の高額報酬

独立行政法人 公益法人問題の メカニズム

資格ビジネス

